

P734-1

いま 子どもたちは

No.1543

2020への道

2

本場で合宿 自分の戦い方つかむ

国の強豪大学の選手と合宿し、アドバイスをもらった。

国内では得意の足技を武器に、負けなし。だが韓国の選手からは「技が見える」と言われた。足技を出す時に、一度足を引く動作を見破られていた。素早く足技を繰り出せるよう練習を積んだ。1カ月の滞在で「自分の戦い方がわかった」。

東京都江戸川区に住む高校3年生の東島星夜さん(18)は、昨年12月から約1カ月間、テコンドーの本場・韓国を1人で訪れた。韓国語は独学で覚えた。韓

東島さんはもともと、5歳から空手を習っていた。礼儀作法が身につくからと父の誠さん

(61)に勧められたからだ。だが小5の時、テレビCMでテコンドーの選手を見て「一目ぼれした」。父に頼み込んでテコンドーの道場を見て回り、韓国から来た指導者がいる千葉県船橋市の道場に通い始めた。

指導者の金容星さん(45)は東島さんを見て、「強くなる」と確信したという。運動能力も高く、のみ込みが早い。何よりも「戦うセンスがいい」と感じた。実際、東島さんは「2年以

内に日本一を取る」という目標後、勝因や敗因を何時間もかけており、中1で全日本優勝。それから海外遠征で欠場した1回練習する日々だ。

テコンドー中心の生活を続けるため、練習の時間が取りやすくて、テコンドーを知らない人にもすこいってわかるような試合をしたい」



得意の足技を繰り出す東島星夜さん。千葉県船橋市

くさんいる。お互いの練習方法や精神面を強くする方法など情報交換をしたり、時には恋の話もしたり。サッカー選手の同級生から「壁にぶつかった時、どうする？」と相談された時は、こう返した。「失敗って何回もするからコツをつかむまでやり続けるしかないよ」。そんな会話でわかり合えるのも、アスリート同士ならではのと思う。

(韓国型子)